

アウクスブルクでの素晴らしい思い出

余田 徹太

はじめに

今回、ドイツのアウクスブルク使節団に参加できたことは、私にとって貴重な経験となりました。ヨーロッパに行くのは初めてで、正直、最初は不安もありました。しかし、歴史的な建物や広々とした街並み、そして親切な人々との交流を通じて、すぐにその不安は消えました。特に、街中で出会う人が笑顔で挨拶してくれたり、写真を撮る時に「手伝おうか？」と声をかけてくれたりする優しさに心が温まりました。

到着日

空港に降りた瞬間、日本と違う景色が広がっていて、ワクワクしました。街中ではメルセデス・ベンツや BMW など、いわゆる「高級車」がタクシーやバスとして使われているのを見て驚きました。ホストファミリーと初めて会ったとき、全員がとても背が高くてびっくりしました。家に到着すると、日本の食器やお箸が用意されていて、「ようこそ」と笑顔で迎えてくれました。その心遣いが本当に嬉しかったです。



メルセデス・ベンツのバス

月曜日

最初に訪れたのはフッガーライという場所で、16世紀から続く世界最古の社会福祉住宅だそうです。そこで、住人の方とお会いする機会がありました。明るく元気に話す彼女からは、住人としての誇りが感じられました。午後は自由時間があり、市内でショッピングを楽しみました。古着屋でジャケットとジーンズを買ったとき、交渉して10ユーロも値引きしてもらえたのはいい思い出です。散策中に訪れた St. Afra Church は、内装がとても豪華で感動しました。



アウグストゥス像

火曜日

この日は市庁舎を訪れました。本当は「黄金の間」を見学する予定でしたが、残念ながら公開されていませんでした。しかし、ロココホールはとても綺麗で、壁に飾られた絵画に描かれている装飾品の細かさに感動しました。ここでは副市長や日独協会の方々と交流し、私たち使節団の役割について改めて考えるきっかけになりました。

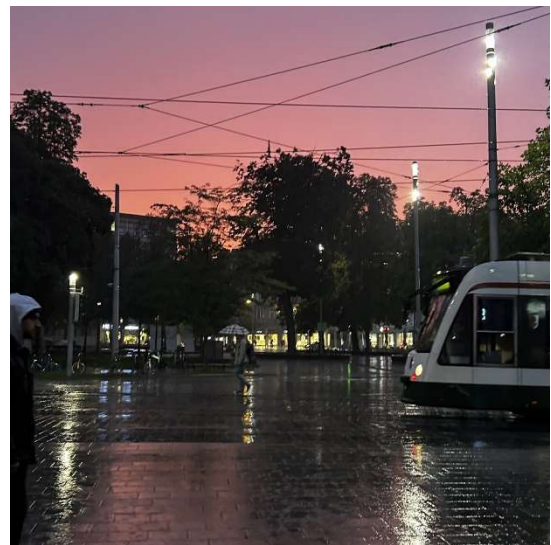
水曜日

この日は、憧れのノイシュヴァンシュタイン城に行きました。外観の美しさもさることながら、内装の豪華さには圧倒されました。王の寝室はシンプルで、シングルベッドが置かれているのが少し意外でした。ベッドフレームには木製

の城の模様が施されていて、とても繊細な装飾でした。

木曜日

早朝にランニングをするため、5時半に起きました。隣町まで走るつもりだったのですが、前日の雨で地面がぬかるんでいて、途中で引き返しました。その後、Halle 116を訪れました。ここではドイツが第二次世界大戦中に行った行為について学び、日本との歴史教育の違いを強く感じました。また、アウクスブルク大学の図書館も訪れました。学問ごとに棟が分かれているシステムはとても効率的で、日本も取り入れるべきだと思いました。



夕暮れ時のアウクスブルク

金曜日

送別会では予期せぬハプニングがありました。映像が本番中に止まってしまったのですが、その場で急遽「We Are the World」を歌って場をつなぎました。冗談半分で「止まったら

歌えばいいか！」と言っていたことが現実になり、みんなで笑い合いました。このアクシデントはむしろ会場の雰囲気をも明るくし、思い出に残る送別会となりました。

土曜日

ホストファミリーと最後の一日を過ごしました。雨が降っていたので外でのアクティビティは難しかったのですが、ミュンヘンにある FC バイエルの本拠地「アリアンツ・アリーナ」に連れて行ってもらいました。試合はなかったものの、スタジアムでお土産を買うことができ、満足でした。事前に「ハンティングに行きたい」とお願いしていたのですが、この日は気温の変化が激しく、残念ながら動物に出会うことはできませんでした。



ホストファミリーとミュンヘンにて

最終日

帰国の日、ホストファミリーに感謝の手紙を渡しました。最後の夜は遅くまで話し込み、翌朝は少し寂しさを感じながら出発しました。飛行機の中ではほとんど寝ていたため、気が付いたら日本に到着していました。

おわりに

今回の使節団での経験を通して、私の視野は大きく広がりました。アウクスブルクで出会った人たちや学んだことを大切にしながら、今後も日本とドイツの関係を深められるような活動に挑戦したいと思います。将来はグローバルな仕事に就き、多様な文化に触れながら自分自身を成長させていきたいです。そして、またアウクスブルクを訪れたいと心から願っています。